

## ■東洋医学診療科

### 1. 2021年度の目標及び方針

東洋医学は現代医学とは異なる視点を持つ。その独特の病態観を通じて、人間という超複雑系である生体システムをマクロ的に俯瞰し、そのシステム障害を改善することで生体の持つ治癒の力、ホメオスタシス維持能力を引き出すのがその本態である。

だいぶ前から以前は常識であった消毒薬の使用が非常に限定的にしか行われなくなった。ERASでも余計な介入をしないことが主眼となり、目覚ましい効果を上げる免疫チェックポイント阻害薬は、生体の持つ防御機構を活用する新規の抗がん剤である。新型コロナウイルス対策として驚異的な効果を上げている mRNA ワクチンも、生体の機能を最大限活用している。アナログからデジタルへの移行に等しいこのワクチン技術は今後様々な分野で革命を起こすだろう。これらから伺える、いずれも生体の持つ力を活用しようという医療の流れは、東洋医学が行ってきていることと同じ方向を向いている。

現代医学的に対応が困難な不調に限らず、本人の闘病反応を賦活することは今後必須となっていくものと思う。一方非常に安価な治療手段でもあり、DPC 採用の当院入院患者に適応することで患者、医療者へのメリットのみならず、医療経済的にも貢献できる。

これらの特徴を踏まえ、本年度も外来のみならず入院症例への東洋医学の適切な利用の徹底により、当院の医療をよりよいものとすることを目標としていく。

### 2. 2020年度評価

コロナ禍で外来件数は減少し、学会活動などの発信事業は多くがキャンセルとなってしまったが、入院患者への関わりは年々拡大できている。外来でも、コロナ禍によって心身の状態が崩れた患者様に関して、漢方治療は有効に対処できたと思われる。

### 3. 科の年間活動内容（試みや特徴など）と紹介

コロナワクチンに伴う副作用について、漢方薬の導入による軽減を試みた。安全性を重視したため著明な効果とまでは行かなかったが、重度の副反応を減少させられる可能性が見いだされた。

小児科領域で漢方により改善できる疾患領域として OD をピックアップし、啓蒙を図る。

### 4. 実績(症例件数や手術実績等)

### 5. 学術関係

学会・研究会発表

南澤 潔

- ・入院診療における漢方治療の意義

第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2020.6月

- ・鬼の金棒 ホスピタリストの漢方

第21回日本病院総合診療医学会学術総会 2020.9月

- ・コンディショニングとしての漢方

日本東洋医学会福岡県部会 教育講演会 2021.1/24